

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(地理歴史)科目：(3年日本史A) 対象：(第3学年1組～6組)

科目担当者：(1～6組:石川孝行(印))

教科・科目の指導目標	地理的・世界史的な視点を融合しながら、日本の近現代史の理解を深め、現代の社会・日本・世界を俯瞰する力を培う。
------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 日本の近現代史で主要となる諸国について、地理的な空間把握はおおむね達成している。</p> <p>2 近現代史を扱う際に必要とされる、政治体制および経済問題に関しては、取り扱いの際に時間を要することが予想される。引き続き、繰り返し学習が必要となる。</p> <p>3 専門用語が羅列されると学習意欲が減退する。わかりやすい言葉で、内容を精選したうえで、歴史の大枠をとらえることができるようになるよう、学習目標を設定することが求められる。</p>	<p>1 3学年も近代史の取り扱いとなるが、現代史においても日本と関係する国々に焦点をあて、その地理的な空間をも重視した内容とする。</p> <p>2 社会主義、共産主義、資本主義、民主主義といった政治体制に関係深いキーワードを丹念に取り扱い、自分事に引き付けていくことによって理解を深める。その際、民衆の個人の記録などを取り扱い、わかりやすさに努める。</p> <p>3 特に歴史用語については、羅列的な指導を避ける。</p>	<p>1 ICTと歴史地図を用いた授業を工夫する。</p> <p>2 授業中のワークシートやノート指導を徹底する。</p> <p>3 歴史用語集等を再編集し、常に手元に置かせながら理解を深める指導を徹底する。</p> <p>4 大学受験等の上位層については長期休業中を含めた補習を実施する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			